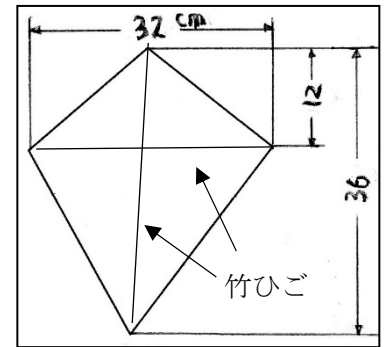


②4 連風（れんだこ）作り

(注) 今まで材料にビニール袋を使っていましたが、紙に変更しました。

- 子どもたちに伝えたいこと
 - 身近なもので、自分で遊び道具を作り楽しむ経験をする。
 - 風（たこ）が風に乗ってあがる仕組みを知る。
- 実施時期：冬季（12月～2月）、お正月の遊びの1つ
- 実施場所：作製は室内、あげる場所は校庭や比較の広場・河原
- 対象学年：1～4学年向き
- 関連教科：図工、理科、生活科、総合
- 時数：1～2時限（3・4学年は1時限でも可能）
連風なので同時に一人2個作るが、一人1個でも良い。



<型紙の寸法>

- 事前準備
 - 学校：竹ひご（φ1.8mm×36cm、風1つに2本必要）、たこ糸（生徒1人約10m）、風のしっぽ（新聞紙、約4cm×1m、生徒1人1本）
 - 児童：障子紙（習字紙でもよい）40cm×40cm以上を2枚
 - どんぐりクラブ：風の形に切った厚い型紙を作っておく（1～2班に1枚）

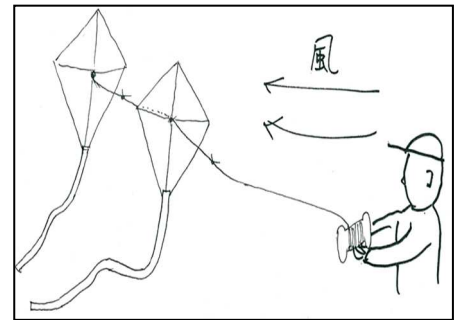
8 当日

(1) 準備する材料や道具

学校：竹ひご、たこ糸、風のしっぽ、グルーガン、連風作りの解説プリント

児童：障子紙（または習字紙）、新聞紙（机の上に敷く）、はさみ、セロテープ（18mm幅以上が良い）、鉛筆または名前ペン、クレヨン（色マジック、ポスカでも良い）

どんぐりクラブ：型紙、グルーガン



<あげているところ>

(2) 授業の流れ

① あいさつ

② 作り方の説明

- 作製時の注意事項
- 連風のサンプルを提示して、作り方を図と材料で説明する

③ 作業

- 障子紙に型紙をあて、鉛筆や名前ペンで切り取り線を書く（1枚ずつでも2枚重ねでもよい）。
- 紙を切り取り線に沿ってはさみで切る。同じものを2枚作る。
- 切り取った紙の縦・横十文字に、竹ひごをビニールテープで固定する。
- 横の竹ひごははみだすので、余分をはさみで切り取る。
- 十文字の真ん中をたこ糸でしばり、真ん中に穴をあけ、たこ糸の片方を裏面に通す。
- 風の下側のV字部分に新聞紙のしっぽをテープで止めて完成。
- 2つの風を1mの糸でつなぎ、手前の風には糸巻きのついた長いたこ糸をつなぐ。
- 風の表面に自分の好きな文字を書いたり、絵を描いても良い。

④ 風あげ競争（残りの時間）

⑤ 終わりのあいさつ

9 備考

風が良くあがるようにするには、どのような工夫をしたら良いか考えてみる。